

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>住み慣れた地域で安心した暮らし、関係性の継続を支えるという視点で理念をつくりあげている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念をリビングに掲示し、日々のサービスの提供にあたっての拠りどころとしている。職員会議やミーティング、カンファレンス等で活かされるように話し合っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族には利用時や面会時、行事や運営推進会議等で伝えている。地域の方々には行事や運営推進会議、見学の他ホーム便りにも記載し浸透を図っている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>地域活動として、住民協議会の収穫祭に出品や花壇の草取り活動に毎年参加させて頂いている。今年度より、地域の放課後児童クラブの児童を招き、畑の芋掘りと流しそうめんを行ったり、茶道遠州会支部によるお茶会を開き地域の方と交流を深める事ができた。運営推進会議の中では、認知症や介護サービスについての質問に答えている。</p>	<p>今後も放課後児童クラブの児童や、毎年慰問のある保育園の園児との交流をより一層深めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価、外部評価を実施することで、理念やケアを見つめ直す機会となっている。新しい気付きや提案などが出ることにより、検討し改善に取り組んでいる。</p>	
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>自己・外部評価、防災、搜索体制、利用者の暮らしづくりや行事等を報告し、地域からは行事の案内など意見交換している。今年度より会議の場を会議室からホームのリビングに移したしたことにより、サービスの実際がわかり意見を多く頂けるようになった。出された意見はサービス向上に活かすようにしている。</p>	
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市職員も参加しているGH協会の研修や、電話等で課題を共有し取り組んでいる。</p>	
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修と資料を回覧し全職員が学ぶ機会を持っている。</p>	<p>現在制度を利用されている方や相談は無いが、今後必要な方には支援していきたい。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部研修の他、今年度より法人の委員会に参加し取り組んでいる。研修内容はミーティングや資料回覧等でも学ぶ機会を設けている。日常生活に於いても、職員の対応や言動についてミーティングで話し合い虐待の発生しない環境作りに努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人間の異動については、利用者に不安を与えないように最小限にしている。利用者とのなじみの関係ができるまで、他の職員と一緒に関わりを持つようになっている。		
5.人材の育成と支援			
17 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の研修にはなるべく受講出来るようにしている。研修報告は併設の施設との全体の職員会議の場で発表し報告書も回覧し職員全員が閲覧出来るようにしている。		
18 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア会議、GH協会の研修、交流会に参加し他事業所との交流や意見交換、ネットワークづくりの場を設けている。電話等でも情報交換を行なっている。		
19 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人の互助会や旅行会があり、3ヶ月毎のボーリング大会やその他忘年会、旅行などを通じて親睦の場を設けている。運営者は職員がストレスと感じている事に対して、改善をしてくれ負担を軽減している。		
20 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も頻繁に現場にきており、利用者や職員と過ごす時間を設け個々の努力を把握し、職能評価を行なっている。職員の資格取得に向け、勤務調整や有給休暇を利用させ支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談の時に、困っている事や不安を聞き、利用に至るまで何度か本人にお会いしお話を伺う機会を設けている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人の状況を把握しながら、今必要なサービスは何かを見極め、必要に応じて居宅サービス事業所にも相談するようにしている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用時前に家族と本人に見学に来て頂き、ホームの生活や全体の雰囲気を見て納得した上で利用して頂いている。顔なじみになれるように利用されている居宅サービスに出向き、関係作りを行なっている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常の会話や料理、畑仕事などたくさんの事を利用者から教わる機会が多々ある。介護する側、される側という関係でなく、お互いに支えあう関係である事が自然の形で出来ている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報交換をしながら、一緒に支えるために話し合い協力しあっている。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との関係が継続できるように、面会や行事に来て頂くように声をかけたり、家族との外出や外泊の支援をしている。本人が家族の声が聞きたくなった場合、いつでも電話で話しが出来るように家族に協力をお願いしている。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの店への買い物や美容室等の利用の継続や、知人の面会もある。併設の居宅サービスを利用している知人がいる場合、利用日に面会に見え馴染みの人や地域の情報を知ることが出来る。利用者のほとんどが地域の方であり、買物に行く際は、自宅の前を通ったり、書類を届ける時も利用者と一緒にやっている。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間でトラブルになりそうな場合や孤立させないように、間に入り調整をしている。皆でやれる作業等を通して、自然に利用者同士が関わり合えるように配慮している。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院等で契約が終了しても、定期的に面会に行き、いつでも相談に応じる事を伝えている。併設の特養に入所された方には、面会に行き話を聞き、職員に伝えたり情報交換をしている。利用者間でも行き来している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の会話の中から本人の思いをくみとり、困難な場合は家族の意見も伺いながら、本人本位で検討している。</p>	<p>職員に思いを伝えにくい方もいると思われるので、家族とも協力しながら思いや意向の把握に努めたい。</p>
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居の際に本人、家族、ケアマネや利用していたサービス機関から情報を提供して頂いている。日々の生活の中での会話や面会時の家族との会話の中から少しずつ得られる事もあり、ホームでの暮らし方に役立っている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>本人の1日の生活の状況を観察し、毎日のミーティング等で職員全員で総合的に把握するように努めている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者が自分らしく暮らせるように、本人の要望を聴き反映させるようにしている。家族の面会の際に意見等を伺いながら、他の職員、本人と一緒に作成している。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状態に変化が生じた場合は本人、家族、職員と話し合いをしながら見直しをしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画に基づいた実践、結果は個別のケースに記録し情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
36 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況や要望に応じて、通院、外出、外泊の送迎支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
37 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署や地域の消防団、民生委員の協力を得ている。		必要時には連携し支援していきたい。
38 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は希望する方がいない。		必要時には連携し支援していきたい。
39 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ケア会議に参加し、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診は本人、家族の希望に応じて対応し、適切な医療を受けられるように支援している。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関に精神科もあり、診断や治療を受けている。月1回の回診時、本人に付き添い状況の報告をし助言を頂いている。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の特養の看護師に相談したり支援を受けている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には定期的に見舞いに行き、病院関係者と情報の交換をしながら早期に退院できるように相談をし、入院中でも安心して過ごせるように努めている。退院後の生活や病状等助言等を頂きながら、早期退院に繋げている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営方針として重度者や終末期の人を対象にしていますが、希望される介護老人福祉施設や病院等に移るまで、入居者や家族が安心してサービスを利用できるように指針を定めた。		今年度、文章化した重度者や終末期に向けた対応指針を元に、本人、家族と再認識し合う他、運営推進会議でも説明し全ての関係者との共有を図る。
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の状態となった場合等、本人、家族と話し合いながら希望される医療機関や入所申請している特養にスムーズに移行できるように取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居先には事前に情報提供を行い、面会に行きその都度意見交換している。移転後も転居先から問い合わせがあった場合は必要な情報を提供している。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
47 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報は契約時に本人、家族の同意を得てから使用している。ミーティングの中で利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応が出来ているかの再確認と話し合いをしている。		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で、利用者の表情等を見ながら自分で決められるように説明をし、意思を確認しながら支援している。		
49 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の会話から買い物、散歩、農作業等の要望があれば、出来るだけ柔軟に対応出来るように調整している。		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
50 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容や美容は本人の望む店に行っている方もいる。身だしなみは本人の意向で決めている。支援が必要な方には、本人の気持ちに添って対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れた野菜を献立に入れたり、買い物、調理、盛り付け、後片付け等を共に行なっている。魚料理が得意な男性の利用者にも、調理や、包丁を研いで頂いている。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好に合わせ、おやつや飲み物を準備している。個人的に食べたいおやつがある場合は、一緒に買いに行っている。晩酌が楽しみな方には、本人と一緒に買いに行き、毎日飲めるようにしている。		現在喫煙する方はいないが、喫煙場所は確保しており対応出来るようにしている。
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を心掛けている。ベットからトイレまでの移動に時間がかかる方はベットをトイレに近づけスムーズにトイレに移動できるようにしている。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の生活習慣や希望にあわせて入浴できるようにしている。時間帯やお湯の温度も好みの温度に調整している。その日の気分で入りたくない場合は時間をおいたり、翌日にしたりし対応している。温泉で個室で、入りたい方は毎日でも可能である。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない利用者の方の、日中の活動内容の見直しや原因を探り、生活のリズムを整えるようにしている。個々の生活習慣を配慮し、騒音や採光にも配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事、花の世話、野菜作りなど一人ひとり役割を持ち、張り合いのある生活を送れるように心掛けている。楽しみごととして、お花見、遠足、地域の行事参加など相談しながら実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを管理されている方、手元にあるだけで安心される方、預かっている事で安心する方、支払いは自分でされる方など1人ひとりの力に合わせて支援している。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、ドライブ、散歩の希望があれば、出来るだけ希望に添えるようにしている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を得ながら、お見舞いや温泉湯治、孫の家に泊まったり、地域の文化祭などチラシを見て行きたいところなどは気の合う利用者数名で出掛けている。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	併設の特養にポスト、切手があり、いつでも出せるようにしている。電話も希望時に対応している。聞かれたい場合は、1人で話せる環境をつくり気兼ねなく話せるようにしている。		今年は利用者と一緒に家族へ年賀状を出したいと思っている。
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設けているが、家族の都合のいい時間にいつでも来て頂けるよう制限はなく柔軟に対応している。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の委員会に参加し取り組んでいる。毎月の委員会からの資料の回覧や職員会議、ミーティング、外部研修などで理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けず自由に入出入りが出来るようにしている。玄関の引き戸にベルをつけ、1人で戻れない方には付き添い対応している。併設の特養とつながる入り口も開放しており、リハビリや散歩、知人に会いに行ったり、遊びに来たりと利用者が行き来できるようにしている。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングの中心に台所があり、利用者と調理しながらリビングの様子を見守っている。夜間は2時間毎の巡回と、利用者の状況に合わせ安否確認を行なっている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人スペース、共有スペースの危険物は利用者の状態に合わせてその都度検討し管理している。注意が必要な危険物は所定の場所に保管しているが鍵はしていない。包丁も見守りの中で使えるようにしている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人の事故防止委員会に参加している。利用者の状況からリスクを想定し、環境整備やマニュアルを確認しながら事故を未然に防ぐように検討している。事故発生時は、報告書を作成し原因と対策を検討し家族、運営者、市へ報告している。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時や事故発生時のマニュアルを確認してから、夜勤業務に就いている。ミーティングでも確認しあっている。		昨年、職員全員が救命救急法の研修を受けたが定期的に訓練を行なっていきたい。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームでの避難訓練の他、施設全体の避難訓練、地震訓練を実施している。施設全体の訓練では、消防署や地域の消防団の協力を得ている。ホームの避難訓練では、施設の職員と連携し、避難、誘導の協力を得ている。消防署の協力を得て消火器の使用の仕方の訓練を毎年行なっている。非常用食料を常備している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者の状況を家族に説明し、今後起こりうるリスクについて理解して頂きながら本人が望む生活が継続できるように共に考え、対応策を検討している。状態に変化があった場合は見直しを行なっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のミーティングで利用者の体調を確認し合い、体調変化が見られた際はバイタルチェックを行い状況により家族へ連絡し受診へつなげている。併設の特養の看護師の助言も仰いでいる。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の持病の把握と内服薬の効能、副作用について確認している。処方の変更されたり、本人の状態変化が見られた際は記録し医師へ報告している。服薬は本人の状態に合わせ、飲み忘れがないように見守り確認を行なっている。		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の予防として、毎朝牛乳を出し、献立にも繊維を多く含む食材を取り入れるように配慮している。水分の摂取量、排泄パターン、日常の生活の状況を把握し便秘の要因を探り対応している。散歩などを取り入れ体を動かす機会を設けている。		
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1人ひとりの力に合わせ、声掛け、見守りを行なっている。		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の栄養士に2ヶ月毎と利用者の状態に変化が見られた時に相談や助言を頂いている。毎食の残食を把握し、摂取量が低下した場合食事表、水分表をつけ補食や代替食を出している。硬さ、熱さ、味付け、量など1人ひとりの嗜好や生活習慣を把握し希望に添って対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	併設の特養の感染症予防委員会に参加し、感染症のマニュアルや予防や対応の取り決めをしている。委員会より最新情報の提供があり、職員全員で確認している。契約時に本人、家族の同意を得て、予防接種を行っている。職員全員も行っている。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用したまな板、布巾は毎食後、夕食後は食器等も消毒している。4日毎の食品の買出しに合わせて、冷蔵庫、冷凍庫の残っている食品の確認と掃除をしており、食品は使い切るようにしている。魚や肉などはすぐに使用しない場合は冷凍保存している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前にベンチやプランターを置き、庭や花を見ながら一休み出来るようにしている。天気の良い日は、家族と外でお茶を飲みながら会話を楽しむ事も出来る。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの中央の台所より、食材を切る音、料理のにおいにつられ自然と利用者が集まり、自主的に手伝いしたり、畑で取れた旬の野菜、季節行事に合わせての飾り付け(正月、ひな祭り、七夕、十五夜、その他)、彼岸の団子、十五夜のおはぎ、正月のお供えなど一緒に作り季節を感じていただいている。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの隣には、和室があり横になって休んだり、廊下にベンチや椅子を置き日向ぼっこや畑を眺めたり、会話を楽しめるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
83	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		<p>建物の正面には庭があり、利用者は水やりや四季を楽しんでいる。玄関の前のベンチとテーブルでは、天気の良い日はお茶を飲んだり、庭を眺め、縁側では夏はベンチを置き涼んでいる。建物の裏は畑、花壇がある。野菜を作ったり、収穫の喜びを味わっている。栗の木もあり、秋は栗拾いを楽しんでいる。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に 印をつけてください)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームはリンゴ畑に囲まれた静かな環境で、敷地内に特養、デイサービス、居宅介護支援センター、在宅介護支援センターがあり、行事参加や利用者間で交流出来 なじみの関係を継続する事が出来る。又園庭や畑もあり、散歩、花の水やりや、野菜を作ったりし余暇を過ごしている。屋内では、畑から採れた野菜で漬物や食事の支度、洗濯物をたたんだり一人ひとりが役割を持って生活しています。 ホーム周辺には、車で五分以内の所に金山焼き窯元、エルムショッピングモールがあり、利用者と一緒に食材の買出しや個別の買物に出掛けている。 今年度は嶽キミのオーナーとなり収穫しに行ったり、放課後児童クラブの児童とグループホームの畑のジャガイモ掘りや流しそうめんを行い地域との関係性の継続や交流に努めている。